

## 八つ当たり語録 (三)

新井 宏

狂人の真似とて大路を走らば、即ち狂人なり。悪人の真似とて人を殺さば、悪人なり。驥を学ぶは驥の類ひ、舜を学ぶは舜の徒なり。偽りても賢を学ばんを、賢といふべし (徒然草)。

日本には諦観があり、事前対応は得意でないが、事故がおきてからの対応能力は優れている。大震災への対応も原発への対応もその例となつてほしいが、心配なのは、最近の幼稚な正論、すなわち過剰反応である。諦観こそが日本を救う。

駐日ポーランド大使ヘンリック・リブシツは「日本人は政府や行政がいかに変わつても(たとえ無政府状態になつても)自己規律を失おうとしないので社会構造そのものは壊されることがない」と看破した。

「地震の長期予測や予知は不可能で、東海地震の予知

研究はやめるべきだ」と、ロバート・ゲラー東京大教授は、英科学誌ネイチャーで主張した。これが日本人の正常な感覚。彼は日本人か。

津波による死者・不明者は二万人を越えたが、原発の放射能による死者はひとりも出ていない。原子炉爆発まで起しながら、死者ゼロの記録は日本の事故対応力として世界から評価を受けるであろう。

評価しないのは日本だけである。チェルノブイリでは放射線被曝によつて原発作業者が五十人亡くなつていく。えつ、たつたそれだけか。もちろん、異説はあるが公式発表ではそうなつていく。

原発には私も反対である。テロや通常兵器による攻撃に極度に弱いからだ。核兵器による攻撃には核抑止力でも対応できるが、原発へのテロや通常兵器の攻撃は防ぎようがない。しかも地震や津波による原発被害よりもはる

かに確率が高いからである。中国や北朝鮮にはぜひ火山の原発を作ってもらいたい。その点、ドイツは実に賢い。

ドイツは、原発をやめて、隣の原子力発電の大国フランスやチェコから電力を買おうと言う。東電が原発を東京近辺には置かずに、域外の県に置いて供給受けるのと同じ発想である。

東日本大震災をきっかけに、生涯のパートナーを得ようとする人が増えている。結婚相談所への照会が相次ぎ、成婚して退会するケースも急増し、婚約指輪の売れ行きも上々とか。

だから言ったではないか、子供手当などは少子化現象を加速するばかりで何の役にも立たないと。「一人口は食えぬが二人口は食える」。仕事が海外に逃避しないようにこそ税金を使うべきだ。

日本で最も出生率が高いのは沖縄県、最も低いのは東京都である。

民主党の功績。マニフェストとは実現不可能な選挙用の「ウソ」であることを白日の下に晒したことである。

東日本大震災の復興財源確保のため増税すると、日本経済は地盤低下してしまうから当面は国債発行で凌ぐべきとの意見がある。言っていることは正論であるが、いつも「大変な状況になる」と言って、増税を忌避してきたのが日本の政治。この際「増税もやむを得ない」と変化した世論に乘らぬ政治家がどこにいるか。

過去五年間で、ヨーロッパ主要国の物価上昇率は、ほぼ十パーセント、英国だけが十五パーセントで突出している。それに較べて極めて異常なのは日本で、わずかながら物価が下がった。その差分だけ消費税率を上げておけば万々歳であった。実質の物価上昇率が国際的にバランスしていれば国民は納得したはずだから。

小佐古内閣官房参与（東大教授）が「これを容認すれば私の学者生命は終わりになる」と「涙の会見」をして官房参与を辞任した。その時の根拠は「年間二十ミリシンベルトは、子供の発がんリスクを二百人について（多く見れば）一人増加させる」ということである。ところでご存知であろうか。

日本人は男女平均で二百人につき九十四人が癌に罹り四十二人が癌で死んでいることを。小佐古教授は原発推進の「御用学者」として知られていたことを。

白血病は放射線を多く浴びると発生しやすくなる一種の癌である。ところで、白血病の最有力治療「骨髄移植法」では、白血病細胞を死滅させるため手術前に数日間 にわたり合計一万二千ミリシーベルトを全身に照射する。

放射線による致死量は七千ミリシーベルトとされているから、致死量以上を浴びせるわけだ。まさに毒を以て毒を制す治療法。

ついでにもうひとつ。局部癌を焼くための照射治療では、六万ミリシーベルト、すなわち致死量の十倍ほどの照射を行う。

年間二十ミリシーベルトを軽く見るわけではないが、ヒステリックになるレベルでもない。

一酸化炭素、塩素ガス、硫化水素、亜硫酸ガスなどの有毒ガスでは致死量の十分の一から五十分の一の濃度で症状が発生する。だから環境基準では、致死量の百分の一から五十分の一に規制されている場合が多い。

放射線の場合、症状が発生するのは、致死量の十分の一であり、話題の二十ミリシーベルトは五十分の一に相当する。なんだ有毒ガスと同じか。

いや、異なるのは一般の許容量を一ミリシーベルト以下にしようとする方向で走っていることである。

緑茶の放射能はどれくらい危険か。規制値は一キログラム当たり五百ベクレルなので、仮に年に二キログラム(千杯分)飲んでもその被爆線量は、自然界の六十分の一に過ぎない。しかし、緑茶二キログラム(千杯分)にはカフェインが致死量(十グラム)入っている。

アルコールの致死量は五百グラムであるが、五十グラムで目に見えた症状(酔い)が生ずる。しかし規制値はない。飲酒運転にも許容値はないが、国際的にはグラスワイン二杯(アルコール二十グラム)くらいまで許容する国もある。

大震災の四日後、政府発表の死者と行方不明者の合計は一万名強であったが、一ヶ月後には二万八千五百名となり、三万名に達する勢いであった。

ところが、四月中旬を境にして様相が一変、現在(九月九日)では、ついに合計三万名を切ってしまった。

八月頃までは毎日、平均して八十名ほど「生還」した勘定になり、毎日「大ニュース」のはずなのに、どのマスコミも大きく報道しない。

牛肉の放射性セシウムが大問題である。ところで暫定規制値のキログラム当たり五百ベクレルというのは、毎日牛肉を一キログラムずつ一年間食べ続けても三ミリシ

1ベルト、すなわち職業人に許容される白ミリシーベルトの三十分の一という値である。

規制値オーバー分は焼却処分にするというが、牛肉を毎日一キログラムも食する者がどこにいるか。年に一度でさえも牛肉にありつけない世界の貧困層を思うと日本の「おごり」を誠に申し訳なく思う。

最近、NHKで毎日のように関東各地の放射線量を報道している。それを見ていると北茨城ではその他の地域に比べて三倍(時間当たり〇・一五マイクロシーベルト)ほどあり、いかにも危険そうである。

しかし、もし画面の端に、ロンドン、ローマ、ニューヨーク、モスクワの線量率(〇・二一〇・二五マイクロシーベルト)を一緒に載せてくれれば、誰でも安心する。マスコミは本質的に「愉快犯」なのである。北茨城の人が悩むことなど考慮外。時には、精神安定剤の役割を果たして見たまえ。

マニュアル作りの下手な日本人に、生産管理から、品質管理、販売、そして災害対応、時には戦争のやり方で、マニュアル化することを薦めたのは米国。米国は多民族国家でそれを必要としたからだ。

しかし、日本でそれが定着すると、責任回避の手段となる。学童帰宅時の引き取りまで、事前登録者だけしか

認めないほど「官僚化」が進むと、災害時にも、それを守れと言う。教育なんぞというものは、非常時の対応能力を付けることが第一である。

外務省の高官が「北朝鮮は、安否不明の拉致被害者の何人かを殺害していると思う」と発言したとウィキリークスが暴露した。

日本人なら誰でも内心で思っていることなのに、拉致被害者家族会はあくまで生存を前提に「圧力」による解決を求め、「対話も必要」とする元事務局長の蓮池透を除名した。

「圧力」をかけ過ぎて、拉致者被害者が本当に殺害されることなど心配してはいないのであるうか。あるいはもう殺されてしまっていることを良く承知しているからであらうか。

ウソが公然と語られるのが、外交交渉の発表である。しかし外交交渉は、本音で真摯なものでなければ成立しない。それを見抜けない者は国の利害を論じるべきではない。特にウソを人気取りに利用する政治家は許せない。

日本女性の平均寿命は九十年後には九十五歳になると言う。さあ、どうしたら平均寿命を下げることができるか。大変な研究テーマを突きつけられている。

老人にとつて「読む」ことよりも「書く」ことの方が、精神活動として優れていると言う。もっとも「時間つぶし」のためにはどのニュアンスではあったが。

中国のレアアースの輸出規制は、外交戦略によるものではなく、レアアースの乱開発による過当競争を改善するためであると専門家は言う。中国政府は採掘を八万九千トンに規制しているが、乱開発で精製能力は二十万トンにも膨れあがつて値崩れしていた。

しかし規制によりレアアースが高騰すれば、どこからか現れるのが常識。現に東大の研究グループは太平洋の海底に、これまで確認されている埋蔵量の約千倍ものレアアースを含む泥土を見付けた。採取も容易と言う。

オサマ・ビンラディンの襲撃は最初から身柄拘束は考慮外であった。

国家による個人の暗殺は国際法の禁ずるところであり、特に政治的な暗殺を厳しく禁じているのが米国である。だから戦争を理由にして公然と暗殺を実行したことに意義がある。

これで気に入らない独裁者は簡単にやつつけられる。金正日が震えあがつている。

始末に負えない者。「思い込み」を「事実」として取

り扱い、それをもとにして自分の理論や推論が実証されたと主張する者。「思い込み」を実証する方がはるかに困難なのに。

誰が何と言っても、超高層ビルは危ない。

韓国ソウルの五階建の三豊百貨店は、風も吹かない中で突然崩壊して大惨事となった。同じくソウル市内の三十九階建てプライムセンター複合ビルではわずか二十名が集団でエアロビクスをしただけで、共振により縦揺れが発生して数百人が避難する騒ぎになった。

M七級の地震が首都圏で三十年以内に起きる確率は七十パーセントだという。M七級とは今回の東日本大地震M九の千分の一のエネルギーに過ぎないが、それでも首都圏で起きると一万人単位の死者がでるといふ。

高層ビルは崩壊しなくとも局所変形する危険性はきわめて高い。もしボルト一本でも締め忘れがあれば、隣のボルトに過負荷がかかり、連鎖反応的にボルトが各個撃破されてしまう。特定の階に火災でも発生すれば、鉄梁が高温にさらされ、強度低下や膨張変形を起して歪んでしまう。高速エレベーターは垂直度が数ミリ狂っただけでもトラブルという。

そんな難しい話よりも、エレベーターが止まり、水、電気、ガスの止まったビルにどうやって住むのか。安全のためなら、原発を規制する前に、高層ビルを規制しろ。

小泉政権の規制緩和策で、都心や駅付近には高層ビルが続出している。おかげで、地方に分散していた大学が都心に回帰している。青山学院大学は厚木にキャンパスを作って将来に備えていたが、学生減を恐れて、相模原キャンパスに移転し、今度は青山キャンパスに戻る。

橋本や相模原を散歩していると駅周辺に超高層ビルが乱立、近郊のアパートは空室ばかり。相続税対策などでアパートを建設した地主は詐欺にあったようなものだ。

仮設住宅建設などよりも、即入居可で、場所を選べば、地域ごとの入居も可能。施策の貧困を感じる。

週刊誌を見ていけば、大相撲における八百長など何ら珍しいことではなかった。少しぐらいの八百長ならあっても良いじゃないかというのが世論であったはずだ。

それが成り立たなくなったのは、横綱をはじめ上位陣が外国人によって占められたからである。外国人力士の活躍こそが大相撲の衰微と八百長の改善をもたらした。

中国浙江省の高速鉄道事故では、事故発生からわずか三十八時間で、重要な検証物件の先頭車両を現場に埋め

て運転を再開した。百七名亡くなった福知山線事故では運転を再開したのが二十五日後である。中国の技術力はさすがである。見習えたまえ。

米国の破産の瞬間を心待ちにしている。

大変なことになるって……。いや、たいしたことはない。歴史上ではうんざりするほど例があったのだから。例えば、スペインの最盛期に、フェリペ二世が即位した時には、税収の五倍の負債があり、第一回目のパンカロータ(デホルト)をせざるを得なかった。その後も四回ほどパンカロータを続け、フッガー家が被害を受けた。薩摩藩だって、年収の数十倍の借金五百万両を二百五十年の年賦という方法で踏み倒している。

状況は違うって。たしかに、そうではあるが、米国の国債がデホルトとなっても、おそらくアメリカ人がもつと働くようになり、中国に失業者が増えるだけのことであろう。

大変なことになるって……。困るのは「ドル」を商品として売買していた連中と金持ちばかりさ。借金に苦しむ庶民にとってインフレは恵みである。

円高になって困るって……。いや日本人は預金や資産をドルで数えれば内心はウハウハでしょう。

輸出が出来なくなつて困るつて……。いや「一万円札」をどんどん刷つて輸出すれば良いじゃないか。米国が「ドル札」を増刷して海外に垂れ流していたように。

そういえば、バーナンキ米連邦準備理事会議長は学者時代に「不景気になればヘリコプターからドル札をばら撒けばよい」と語り、ヘリコプターベンの異名を取つた。日銀に頼んでダメなら北朝鮮にでも頼むか。

そんなことをしたら円安になつて困るつて……。それなら円高で困るなんて言うな。本当に困るのは、円高で日本に働く場がなくなつてしまうことである。

「一万円札」を商品として売買している連中はニコニコしている。

米国が破産するどころが一番困るか。言うまでもなく中国である。米国人の浪費が止まると、最大のお客が無くなり、しかも手持ちの米国の国債に大損害がでて、食糧輸入がままならなくなる。これを人民に転嫁すれば暴動が起きて政権は崩壊する。

中国にとつての致命傷は食糧問題。いまは食糧生産が順調であるが、異常気象の今日、五パーセントでも生産が停滞すれば、かつてのソ連と同じように米国から大量

に輸入しなければならなくなる。それはソ連共産党が崩壊した道である。

ご破算で願ひましては……。いや、ご破産で願ひましては……。

円高で困っているつて……。

為替介入なんて姑息なことをせずに、節電と同じように、国民に円安を呼びかけ、日本国債は絶対買うなと協力を呼びかければよい。

レンブランドは弟子たちに「知識は実践せよ。さすれば知らぬ事、学ばねばならぬ事が自明になる」と指導していた。

少し知るとすぐにやつて見たくなり、失敗しては恥ずかしい思いばかりをしてきた私にとつて、勇気を与えてくれる言葉。学んではかりいて実践しない人は、実は深い理解に達していないのである。

飛鳥川の淵瀬常ならぬ世にしあれば、時移り、事去り、樂しび、悲しび行きかひて、はなやかなりしあたりも人住まぬ野らとなり、変らぬ住家は人改まりぬ。桃李もの言はねば、誰とともにか昔を語らん(徒然草)